

飯島吉扇いいじまきっせん名は吉之丞きちのじょう、東春近村上殿島柳哉幾ひがしはるちかむらかみとのじまりゅうさいいくたろうし太郎ちち氏の父で、句集中くしゅうちゅうの「翠簾みすほしき吉扇亭きっせんてい」の牡丹ぼたんかなていしゅの亭主ほうりょうである。鳳良どうしよは同所いとうぶへいたの伊藤武平太りゅうさいししよぞう。(柳哉氏所藏)

かんぜつ
換舌

日々快晴ひびかいせいにて御同事大慶奉存ごどうじたいけいぞんじたてまつりそうろう候。{ここまではあいさつ文。}

偕過日は毎度ながら頂戴難有仕合御厚礼禿筆さてかじつまいどちようだいありがたきしあわせごこうれいとくひつつくに尽しがたく、其節申上置候衆評そのせつもうしあげおきそうろうしゅうひょうぎの義に

付、鳳良子ほうりょうしより御咄申上置候おほなしもうしあげおきそうろうとお通り何か当日入用紙筆なにとうじつにゆうようかみふでたぐいちょうしんの類調進つきに付、【さて過日は、毎度

ながらご馳走になり、ありがとうございます。そのときに申しあげました「衆評」のことについてですが、鳳良君からお話があったとおり、当日に必要な紙や筆などを、調達いたしますので、

{「衆評」とは、互いに批評しながら句の良し悪しを決めてゆくこと。たぶん連句の会を開くのだろう。}

御都合次第ごつごうしだいにて式百疋程にひやくひきほどはいしやくしたく拝借仕度、直様今日高遠へ出向、夫々相求申度、すぐさまきょうたかとおでむきそれぞれあいもめもうしたく【ご都合がつき次

第、二百疋ほどお借りしたく、すぐに高遠城下へ出向いて、紙や筆などを買って来たいので、
{一疋は錢十文のことだが、錢二十五文という説もある。}

右御返納は終会の節迄と御承知可成下候。余は拝眉万々。早々頓首みぎごへんのうしゅうかいせつまでごしょうちなしくだすべくそうろうよはいびばんばんそうそうとんしゅ【借りたお金は、会が
終わるまでにお返しします。そのほかの事については、お会いしたときにいろいろお話しします。】

とおか ほうりょう せいげつはい
十日 鳳良 井月拜

いいじまきっせんくん はいどうよう
飯島吉扇君 俳当用